

人間および貨物の流動と流通を取扱う交通現象は、人類の初現以来みられた、地表の経済現象の一部門を構成する。それゆえ交通地理学は従来とも商工業地理等と一緒にして広義の経済地理学にふくまれて来た。しかしリヒトホーヘンは集落と一緒にしたし、景観的には交通路は地表の集落間を結ぶ。

交通地理学はまたひとり陸上交通だけではなく、海上交通や空路網をも取扱うことはコールやハッセルトの教書をみれば明らかである。一方交通現象の歴史が交通史であって、日本の場合、交通史の研究は従来主として歴史家によって試みられて来た。しかし交通地理学の部門においても歴史的地域を対象とした交通現象や交通路の変化が取り上げらるべきことは当然である。

本書は従来の現代を主にした交通現象の経済地理的あるいは計量的な研究と歴史家の取扱つて来た文献を主にした交通史の研究にみられる欠を補った、日本における交通の歴史地理学的研究の諸論文を収録して一書とされたものである。内容は一九七二年度の歴史地理学会の大会で取りあげられた共通テーマたる「交通の歴史地理」についての、各研究者の真摯な地域研究の報告であって、いずれも戦前には研究が手薄だったテーマを取りあげている。しかもそれは丸茂教授の古代の駅制

に関する概観から始まって、ひろく日本全体に及んでいる。しかしその内容は古代を主にした道路の研究と近世を対象とする内陸水運その他に大別されうる。これは一日の限られた時間内で、歴史時代の交通現象や交通路の変化を網羅することは不可能だからである。なお当日はほかにも既往の交通の歴史地理研究史が発表されたが、その内容が極めて広汎にわたることが論議せられた。今後さらに歴史地理学における交通部門の研究が、地域的にも時代的にも、さらには機能的にも、他の経済地理学や都市地理学の部門に劣らず発展することを信じてやまないのである。当日の聴講者の一人として、各発表者の真摯な研究に幾度か胸をうたれる印象が深く、且つ質疑者が多く活気づいた会場を想起しながら、求められるままに序とする。

なお、本書の上梓に際しては、財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わったことを付記して謝意を表する。

一九七三年一二月

藤 岡 謙 二 郎